

No. 24

1992

12月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
下井武平
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



屋外展示（盆栽）



敬老会（パワーのある万歳）

文化祭り・敬老会



ステージ発表（民謡クラブ）



展示発表（手芸クラブ）

会場あふれる盛況

平成四年度文化祭り

恒例の下市田文化祭り・敬老会を区と公民館共催で、去る十月十七日(土)～十八日(日)に公民館において開催しました。

二日間とも好天気恵まれて、老人の方も一般区民の方も大勢参加していただき、展示場は一時満員のときもありました。この日は保育所を会場にした県知事の投票日と重なり相乗効果もあって参加者が多くなりました。

本年は、新しい試みとして体育館を中心に十七日の午後、空缶による積み上げゲームと空缶ボーリングを行なったところ、子供や家族づれの来場者もあり、マンネリ化に新風を吹き込んだと好評でした。

敬老会には、四百九十名(七十歳以上)の方を招待しました。卒寿以上二十名(二名)、米寿祝五名(二名)、喜寿祝二十五名(十五名)、上記以外四百四十名(百七十八名)で、出席率は約四〇・二％でした。()内は出席者数です。

文化祭は、クラブ・団体。個人の展示発表(書・絵画・生花・盆栽・陶芸・手芸・編物等)や、敬老会に併せ茶道部の接待、各クラブによるステージ発表(大正琴・詩吟・民謡・民踊・舞踊・カラオケ、飛び入り等)が行なわれました。

今年も作品展示後、関係者が各作品について、所見を述べあいました。昨年以上に向上がみられ日頃の研修の活発さが伺われました。

(文責 北島)

区の情勢について

区長 下井 武 平

裁判については、第二次高裁第四回が去る九月二十八日に開かれ、今回を以って結審となり、年内には判決があると思います。勿論勝訴を確信しています。

公共下水処理場用地については、去る十月十九日に予定地及び周辺の関係者に對して、町の理事者及び担当者より概要の説明がなされ、之に對して関係者が対策委員会を組織し、今後町との話合いの窓口となる事が決まりました。

道路関係では、田村線の松島重人さん宅付近より九十米が、工期平成五年二月十日と決まりました。

——一号線についても、竜西線迄の関係者の了解が得られましたので順次着工されると思います。広域農道については、先般県の説明によれば大島川橋以南は全線西側へ歩道を付ける事になり、従って歩道分だけ買い上げ面積が増加する事になります。

細部の説明は後日あると思います。明神橋の掛け替えについても地元説明会が

開かれ、平成八年完成予定で、現橋北側との事であります。江戸ヶ沢の改修（黒沢下排水）についても黒沢と江戸ヶ沢交差点より下流を大改修する事となり本年度用地買収に取りかかる事が決定しました。長年の懸案が一日も早く解決する事を望みます。

代議員会二ヶ年のまとめ

会長 市岡 治 男

代議員会にお世話様になりましてから早くも二年の歳月が過ぎようとしております。高森町を代表する区の最高決議機関であり、又郡下の小村よりもはるかに多い人口を擁する大下市田区運営の良否は、地域内外に及ぼす影響は極めて大きく、こうしたことを十分自覚する中で厳肅な姿勢で取り組んで参りました。それでは内容の一部をご紹介します。

一、会議規則の制定
これは従来の方法に若干の肉付けを行ない正文化されました。特徴として

・町の振興計画（平成五年から九年）の査定が行なわれ、各単位より要望の提出をお願いしましたが、十一月三十日に町と区のヒヤリングがあり、今後五年間の計画の概要が決定されました。

以上情勢の御報告をいたしました。各関係の皆様が御理解と御協力がなければ実施出来ませんので、宜敷くお願いいたします。

代議員会にお世話様になりましてから早くも二年の歳月が過ぎようとしております。高森町を代表する区の最高決議機関であり、又郡下の小村よりもはるかに多い人口を擁する大下市田区運営の良否は、地域内外に及ぼす影響は極めて大きく、こうしたことを十分自覚する中で厳肅な姿勢で取り組んで参りました。それでは内容の一部をご紹介します。

二、選挙管理規程の改訂
区運営規則による役員の選出方法につき、明解にして厳正公平を期すべく、同規則の別項として新たに選挙管理規程を設けました。



代議員研修のひとこま

三、芸能保存会規約の制定
複雑多岐に亘る区の行事の中で、尊い歴史の中から伝承されている郷土芸能と戦後の自由思想とを照合してみるに、従来の方法に矛盾がない訳でなく、その辺を見直しできるだけ抵抗が少なく参加できるように配慮しました。

これらは何れも慎重審議の末、規程審議員の皆様が委嘱し制定されたものであり、充実した内容であるものと信じております。

この外細かいことは割愛させていただきますが、公民館や神社の行事には全員で協力し区政に参加させて頂いております。任期も余すところ僅かとなりましたが、

有終の美を飾るべく最後まで努力することをお誓い申し上げます。今日までに寄せら

れましたご好意に感謝し二ヶ年のまとめとさせていただきます。

各委員二ヶ年のまとめ

林務委員 野神 昭 三

新体制が発足し事業計画をここに記載したのがつい先頃と思いましたが、早いもので二年間の任期も残り一ヶ月となりました。

林政事業も区民皆様方の協力の中、山作業も計画どおり進み、後年末の門松取りに合わせた間伐作業のめりとなりました。又生活環境事業も三年度工事が完了し、四年度分もほぼ終了する段階になり、これに関連する谷止めえん提工事、大島山側からの進入道路も完成し、私達十二名二年間のこの大役をなんとか大過なく終えられる事に對し、あらためて皆様方の御理解と御協力に感謝申し上げて、林務委員会の報告とさせていただきます。

土木委員 村沢 利 美

下市田区の皆様には日ごろ道路工事等に付きましてご協力を頂き有難うござい

水利委員 下井 美紀 男

河川や井水等を担当する中で、主に地区計画を通して区民の皆様には大変

御協力を戴きありがとうございます。平成三年は、台風等雨も多く計画外の工事もある苦勞しました。平成四年は梅雨時も台風での雨も少なく各水系で、トラブルを起こすことなく助かりました。今後も下市田区の河川や用排水路については、上段地域の構造化や農地の減少によって、一旦降った雨が一気に流れてくることで町の理解もいただき年々順次改善された水路環境に整えていきたいものです。

最後に本年度特にここでとり上げたいことは、水利権に関して、長年の懸案だった牛牧区と上市田区とにかかわる部分で、昔からの言い伝えを踏まえ乍ら現時点の状況で新しく図に示し、文章化して後代に残すことができました。今後の水利に関しての認識で大切なことでこれが整って良かったと思います。

厚生委員 竹村 征夫

二年前最年少の私が、二期目という事で委員長に決まってしまうやうにけるか心配でしたが、皆様方の御協力により何とか無事やりとげる事ができました。

ありがとうございます。

一般ゴミ粗大ゴミ等の収集に関しては、改善されていますが、心ない人も後をたません。できるだけ多くの人が手を出し、関わり合っている仕事の必要性、重要性を認識して欲しいと思います。清潔検査に関しては関心を持たない人が見られます。又一人で百戸から百五十戸を検査訪問する所もあり、検査済証の紙を置いて来るだけで精一杯という所もあり、訪問検査を原点から考え直す必要があると思います。

来年度の新しい委員の方々にも私共と同様に皆様方の絶大なる暖かい御協力をお願い致します。

消防委員 上 沼 利 実

消防委員会の事業につきましては下市田区の皆様の御理解と御協力をいただきました事を厚く御礼申し上げます。

委員会では主に地区計画によって要望された防火施設の新設と既存施設の維持管理に努めてきましたが今期消火栓六基、貯水槽一基が新設されました。まだまだ多くの要望箇所が有りますが町の予算の都合でもう

委員対抗スポーツ大会

(グランドゴルフ)

富 田 隆 仁

九月二日午後二時、晴天の秋山保育園園庭に若い人達(五十歳から七十歳位)約五十名出席勢揃いした。下井区長開会のあいさつ後、競技委員の野神氏よりルール説明諸注意があり、三ヶ所より一斉にスタート、試合開始となった。

日頃馴れないステッカーをにぎり、目標へ向ってドーンと一打、右左とずれ目標より大きくオーバー。又気弱な一発等々さまざまである。パー七二打、大きくオー

暫く時間がかかると思いますが、防火訓練につきましては参加人員が減少傾向にあります。訓練内容にも問題があるかと思いますが若い方の関心も無い様に感じます。火災発生時の初期消火は大変重要な事です。家庭で一番火を使う方は是非とも参加をお願いします。火災の発生しやすい時期になります。火の元に充分注意されます様をお願いいたします。二、三年間のまとめと致します。

バする事は覚悟一〇〇打以内で一回り出来ればたいしたもの、開始後二時間一ランドをこなす。その結果次の皆さんが入賞栄光に輝いた。(一位一組)

一位 西村東一郎・富田組
市岡会長・宮下組
三位 田口・北島 公民館コンビ。

公民館にて反省会、競技委員長より発表された。

【寸評】

グランドゴルフが、普及大衆化されたので、素晴ら

しいプレー。大笑

プレーが目についた。技あり、ホールインワンありでなかなか味なものだ。

常々、元気旺盛な紳士でもステッカーをにぎると人変りする程慎重になる。ある意味では、精神修養の一助になるか。

ある委員のメッセージから午後五時、一九ホールは公民館で反省会。笑い声のうずの中

クラブ活動は定着した

五区 北 林 只 人

下市田公民館の傘下には幾つくらいクラブがあるのだろうか。私は他人に聞いたこともないし、知ろうとも思っていない。大切なことは数ではなくて質の問題である。公民館の「文化まつり」でその発表会を企画していただいていることは大変ありがたいことで、年々

質の向上は目を見張るものがある。どのクラブもそうだと思うが途中でやめる者、会員の高齢化が目立ち、それにマンネリ化も手伝って発表の意欲を失っているクラブもあると聞く。淋しいことである。このことについて役員



皆さんはとても神経をつかっておられるようだが、決して心配したことはない。クラブは定着し、本物が

見えてきた。

：そこで提言ひとつ：

参観者の数のこと。一言でいえば「少ない」。多くの参観者を得るひとつの方法としてステージ発表の折の敬老席を整理して一般席を固定化したらどうか。そうすれば作品見学者も自然にふえる。

△下市田五区△

主事 細江 博

私達五区の戸数は百三十九戸とアパート六戸だてが三棟あります。下市田区の戸数順位は四番目でありますが今後まだまだ増える傾向にあります。

おらが地区

五区も区と町のスポーツ大会及び各行事に参加しています。今年度の五区部落独自の行事としては、九月にコミュニティスポーツ大会、十月にはコミュニティ活動のアパート住居者との交流会を計画して実施しました。

従来行なっていたスポーツ大会は、常会対抗試合の

為か選手の方のみの参加となりがちであったので、昨年度より大勢の方が参加して楽しんで貰える様に常会対抗をやめて部落全員が参加して出来る行事にした。

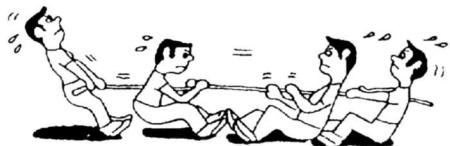
本年度も九月四日に南小学校のグラウンドと体育館に於いてグラントゴルフ十八

ホールを参加者全員を二人一組で行ない、綱引きを常会対抗で、バレーボールを全員で行ないました。

当日は好天に恵まれ珍プレーに爆笑すればホールインワンする人も有り、気持ちの良い汗を流し素晴らしい一日と成りました。

又アパートの方々の交流会も皆様の要望事項のゴミステーションの新設も、町のご理解により解決するなど成果をあげています。

特に五区青年会双葉会が結成して、町民運動会の応援団、萩の里祭り、カラオケ大会にと活躍して部落の活気を盛り上げている。又最近若妻会の皆さんが、バレーボールの練習を始めるなど、今後大いに若い方々の活躍に期待出来る事と思います。



趣向を凝らした

カラオケ大会

下市田区、視聴覚部、教養部の合同による第十回下市田カラオケ大会が、去る九月二十八日(月)に公民館に於いて、取り行なわれました。

◇歌唱賞

だんな様

牧内圭子…五区

◇努力賞

北の旅人

社本正勝…四区

◇熱演賞

男の背中

塩沢章好…二区

大勢の区民の皆様方の声援の飛びかう中、踊りありアトラクション等折り込まれ、盛大な会になりました。審査員の先生方の慎重な審査の結果、次の方々が入賞されました。



熱唱の上沼みゆきさん

カラオケ大会に参加して

松島修三

誰しも恥をかくのはいやだし、出来るだけそんな事は避けたいと思って日々暮らして居ると思うけれど計らずも大恥をかいてしまったと云う事は軽率な私には時々ある。

とは云っても大恥をかけた直後は吾れながら可愛想なほど反省するから、それなりに忘れた頃にやってくる云う具合である。

今度のカラオケ大会がまさにそれで、あれから時間も月日も過ぎたが未だに私の胸の奥には『失敗したな』

楽しかったカラオケ大会

多田井敏彦

私は、カラオケ大会がある事を聞く度に上手であれど、みんなを楽しませることが出来るのに、いつも残念に思っている。役員の方々は大変でしょうが地域のふれ合いやともすると忘れがちな連帯感を起こすにはよい企画だと思ふ。既に出来上がった舞台の前では車座になった人々がいくらか薬が効いたか氣勢をあげている。司会の調子よろしく順調に一番目から歌が流れて行く。曲が最高潮となり、みんなが歌手に集中し舞台と客席は一体となる。区切りのところで拍手や華、激励の声など随所に飛ぶ、なかなかよい情景である。出場者にはそれぞれに隠れた持ち味と才能を持っているものだと感心しながら観衆は評価している。これだけでも将来につながる素晴らしい想い出となるし、今後人前に出るとき大きな自信につながると思う。

二年間の活動を振り返って — 公民館各副部長 —

教養部

木村 善徳

公民館の最も大きな行事であります夏の萩の里まつりが大勢の区民の皆さんの協力、御参加を頂いて盛大に、にぎやか開催できたことが一番の喜びでした。

が振り返って見れば案外速く過ぎたという感です。今後多くの皆さんが代り合って公民館の活動を経験し、そして又一住民に返ったとき、それを生かして協力していく、そういう構造が確立して行けば最も良いと考えます。最後に皆さんの御協力に感謝を申し上げて筆を置きます。

体育部

弓田 行宣

体育部の活動は、冬の卓球大会、初夏のグラウンドゴルフとミニソフトバレー、そして、今年から公民館文化祭でのお楽しみコーナーなどの事業を行いました。区民の皆様のご協力を得て、無事終了することができ、役員の一員として感謝する次第であります。これらの活動に対しては、一部の限られた者しか参加できないとか、人集めが大変だとかいろいろな意見が出され、

町卓球大会が、ドッチボール大会に代わったことは、

ご承知のとおりです。区の大会については、体育部内でも議論いたしました。老若男女が、下手・上手はともかく、卓球は手がるにできるスポーツであるというところで、中味を見直し実施しました。役員が人集めに苦労するなどの批判はありますが、地域住民のコミュニケーションふれ合いの場を作り、手がるなスポーツを下市田区民が、年に一、二回一緒に楽しむことは、大切なことだと思います。

また、高令者が増加し、生涯学習が叫ばれる中、区民がいつまでも健康を維持できるように、日頃の体育活動も重要なことだと思います。この日頃の活動をどうするかということは、公民館としての今後の課題と申せましょう。

視聴覚部

小 椋 邦彦

四年前の春、たしか一月か二月頃であつたであろうか、下市田区から視聴覚部

の会合通知が届いた。誰がいつ私を榮ある部員に決めていたのか、さて視聴覚は何をするのかも全く未知のまま、又文句も言えず初会合に出席したのがこの仕事の始まりであつた。そして今年で二期を努めさせていたのだ訳であるが同じ視聴覚の部長を始め部員の皆さんに助けられ、もたれかかったまままでの任期で皆さんに感謝することばかりであります。仕事は満ち足りては行かなかったけれど、各催事の時には準備と打合せが最大のポイントであり、失敗が許されない事に少々プレッシャーもあり、無事終った時には喜びもひとしおであつた。又一区に住んでいなかったが何も今までにできなかった気持ちがこの仕事をやった事により下市田の一区民としての実感もあり、今では感謝の気持ちと満足感が沸いております。部落の役員の方々、同じ立場で活躍された各部員の皆様とも今まで以上に親しく

図書部

市瀬 一至

なつた事も私にとって大変にうれしく感じております。当区の視聴覚部は町内の他の区にはないといわれております。技術レベルも大変高いものがあるかと感じております。この様な中で一員としてやれた事に心から感謝し、今後益々下市田区が発展されることを祈りしてお礼とします。

図書部の活動に参加させていただき始めて、早いもので二年間が過ぎようとしています。図書部の活動は毎月十五日の開館日と年一回の新聞図書購入が主なものであるという引き継ぎでしたが、今回は旧図書室が使用できなくなるといふ事態になり、図書室の移転が大きな仕事となりました。

旧図書室にあった本をすべて公民館へ移すだけでなく、古くなつて廃棄する本、歴史的資料とする本、実際の図書として利用する本に分類し、それぞれ整理、保管することになりました。

また、公民館二階に図書室を開設し、運営方法としても、「月一回」の開館日という従来の方法を廃し、

公民館が開いていればいつでも利用できる形にし、月一回の部員の活動は本の整理・返却状況のチェックを中心を実施するようにしました。

このような変更があつたために、図書の利用冊数は増加傾向にあり、便利になったという声も聞かれます。本の管理面では、今までより手薄になっている点がありますが、より自由に使い易い図書室という方向で今後も進んでいってほしいと思います。

図書部の存続自体にもいろいろな意見が出ているようですが、図書の分類の工夫や新しい本の購入、文化祭への参加の方法など、活動できる部分は数多く残されていると思われました。



文化祭り 敬老会に参加して

文化祭に参加して

二区 松島 美智子

今年度の文化祭に、私共編物クラブでも作品を展示させて頂きました。矢沢先生のご指導によりまして、カーディガンに取り組んでみました。一本の糸が、二本の棒によつて、一人一人の手から編目が重なり、規則正しくその面積を拡げ、一枚の製品になっていく過程の楽しさ、しかしそれには、デザインに始まりゲージ取り、製図となかなかの苦労はありますが、自分の手で作り上げた時の嬉しさはまた格別です。

文化祭展示に参加して

三区 宮下 澄子

今年、三区若妻会には五人の若いお母さんが入会していただきました。平均年齢で御迷惑をおかけしている私にはうれしい年でした。一月の新年会に始まり、料理講習会、お花見、高森荘との交流会と活動し、夏頃からは、文化祭に向けての作品作りにとりかかりました。今年は、ある雑誌に載っていた「コットンバスケット」を紹介したところ、好評でしたので早速制作を始めました。二枚の円形の布に、放射状のステッチを

飾り付けに参りまして、各方面のクラブの方々の出品作品を拝見して、来年こそは、見劣りのしない作品を展示しなければと意欲をもやしております。



ながら拝見させて頂きました。また、他の地区の若妻会の方とお話できうれしかったです。区の中で若いお母さん方の横のつながりができたらいなと思いましたが、最後に区よりの様々な援助に対し御礼申し上げます。筆をおかせて戴きます。

敬老会に参加して

六区 岩崎 ツネヨ

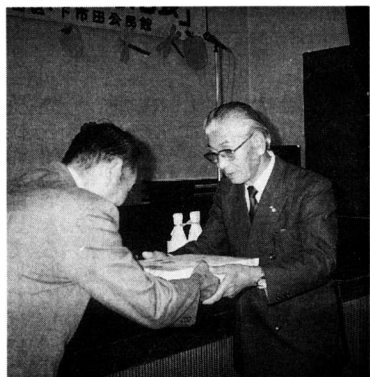
明治三十三年生れ、九十の下半身が、手をとって区長さんと思つていたのですが、近所の皆様のあたたかい言葉に誘われて、参列させて頂きました。会場入口迄マイクロスプークで送って頂き、会場に入り大勢の人でびっくりしました。そして更にびっくりした事は、「九十歳以上を代表して祝品を受け取ってくれ」と云われた事でした。区長さんの前迄行けるかどうか心配していたら、ダサラの婦人会長さん、一足先に我家に帰る事になりました。今日一日が本当に長い様で、短い一日でした。また周囲の人達が見守ってくれた事を感謝しながら、又来年もなんとかして出席したい気持ちで床につきました。

敬老会に招かれて

四区 小島 正美

十月十八日に敬老会が開催されました。特別招待の封筒らしいので開いて見ると私は喜寿なんだそうです。刻家の北村西望先生も文化勲章受彰者であつて昭和五十八年に百五歳で亡くなられた方々です。平櫛田中先生の訓言を思い浮べてみますと「六十、七十は鼻たれ小僧、男盛りは百から」と申されています。今日私共が喜

る。世界的な彫刻家であつた平櫛田中先生は文化勲章受彰者であつたが昭和五十二年に百七歳で亡くなられた。又同じ彫刻家の北村西望先生も文化勲章受彰者であつて昭和五十八年に百五歳で亡くなられた方々です。平櫛田中先生の訓言を思い浮べてみますと「六十、七十は鼻たれ小僧、男盛りは百から」と申されています。今日私共が喜



下市田区の住民になって

一区 内山 義治

私達一家は、三年前、久堅より下市田日影に引越して参りました。当初、一番心配されたのは、子供の事でした。上から中一、小六、小三の三人ですが、小学生のうちは、まだだなじめる時間があるな一と思いましたが、中学の子が高校入試まで、二年しかない事でした。二年の新学期から高森中にお世話になった訳ですが、入学式初日より友達ができ、親の心配どこ吹く風と言った感じでした。

私も、短い間ですが、常会を始め、高森町の心暖まる人間性を肌で感じている次第です。下市田区は環境も良く、目の前には素晴らしい大丸山公園があり、春から秋にかけては、家族団らんに使わせていただいております。年中行事も多く、

ようこそ下市田へ

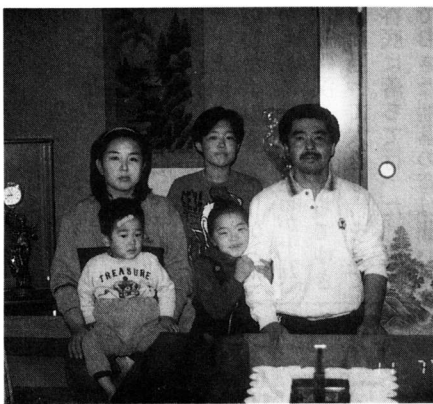
事を通じて一日一日と、下市田区の住人になったな一と、感じています。高森町に来て本当に良かったと、実感しているところです。



地域活動を通じて

一区 下平 正

私が高森町にお世話になりました。現在の住所になってもうじき三年。八年前に初めて塚越常会に入



りて頂きまして足掛け五年お世話になりました。全く常会の活動や役割に対して無知な私共でしたので、最初はとても消極的だったと思いますが、御近所の方々から一つ一つ教えて頂きまして、楽しく参加できるよ

人の輪は和

六区 青木 としえ

私たちは、昨年八月埼玉県から、環境の良い市田に移り住みました。久しぶりに住む信州はなつかしく、胸に期待を持って来ました。さて、古くて新しいことばに「人の和」というひびきのよいことばがあります。福祉の時代といわれている今こそ、この人の和が大切

だと思います。現在の都会では、以前は話題となった「となりは何をする人ぞ」ではなく大きく交流が広がっ

うになりました。三年前には現在の中央常会の方々に

もあたたかく入会させて頂きまして嬉しく思っています。先日にも一区の運動会とふれあい広場では、思う存分楽しませて頂きました。

長女が中学一年。次女が小学校一年。長男が二才で吉田河原保育園の未満児でお世話になっています。子供の成長と共に、地域活動への参加も益々多くなっています。いく事と思いますが、今後、家族共々よろしく御指導下さいますようお願い致します。

文化祭りを振り返って

教養部

十月十七日(土)

十八日(日)の両日、下市田公民館を会場に、区文化祭り、敬老会が開催されました。

初日午後からのお楽しみ会を初めとして、展示会場では書、絵画、水墨画、陶芸、生花、手芸、編物、童話集、文集、盆栽と、会場一杯に飾られ、一年の努力の素晴



流を広げてこそ自然と輪で結ばれ、和となるのではないでしようか。それが若い人々の交流のささえにでもなれば幸いです。



自然探訪

ある日の

山歩き

平澤 忍 夫



北穂高岳での眺望をたのしんでいて思わぬ時間がすぎた。奥穂高山荘までの稜線岩ばかりの道だ。右も左も切れこんだ深い谷と雪溪が見える。岩に手をかけて上ったり、後ずさりして下がったり緊張の連続だ。しばしの休みに遥かに続く山に目をやり、近くに咲いている高山植物に目を向けるがゆっくり観賞している余裕はない。上ったり下ったり岩ばかりの道は続き後何時間かかるのか、目の前に垂直に近い岩に近づいて、五、六歩手前突然「ガラガラ」と向こうの岩陰から音がした。「崩落」だ。ひとかえもありそうな石が十五、六箇雪溪を転り落ちてゆき岩に当たって大きな音を立て谷底に落ちて行った。遠くでおきた崩落の音は聞いたことがあるが目の前の崩落は初めてだ。背すが寒くなった。岩陰に曲りこんで見た崩落現場の生々しさ。涸沢槍の手前の鎖場、何人かの人が順番を待っている十メートル程の岩に針金状の鎖が一本。順番待ちのひとつとき、何げなく左の岩場に目をや

グループ紹介

一区積善琴の会

唐沢 政子

昭和六十年十月に発足、当時は二十余名居ましたのに家庭の事情等でやめられて二十名を切ってしまうが、今年で八年目を迎える事が出来ました。

それぞれに職を持って忙しい主婦、四十代〜七十代までの幅広い方達の集まりですが、ちっとも年齢の差は感じません。みんな一丸となってやる姿には若さいっぱいのパワーがあるからです。

十月のミニティーの際の発表、二月の琴伝流発表会にむけて毎週集まりを持って練習に集中出来たことは遠くから見えて下さる先生の熱心な御指導、そして、家の方々の理解、会員皆さんの協力があってこそと有難く思っております。

た。一株の花が「あっ」ミヤマオダマキだという人々がいつせいに顔を向けた。そこには一輪のミヤマオダマキが雪溪から吹き上げる

風と霧に濡れて咲いていた。(この鎖場をオダマキのころと言うそうである)何回かの私の山歩きで見たまヤマオダマキの中で、これ程あざやかに目に残っているのは無い。残念ながら写真撮る余裕がなく今も心に残念だったと後悔している。

す。今後楽しく、親しみの持てる会として出来る限り続けて行きたいと思ひますのでよろしくお願い致します。



楽しい成果に感心させられました。茶道部のお茶の接待は、にぎやかな文化祭りの中のほっとする静かなひとときでした。また当日はコスモスが満開で秋晴れの、お年寄りの方をお招きするのに絶好の日で、多くの方の出席をいただき、五十名の方の長寿の表彰が行なわれました。なお一層のご健勝を心よりお祈り申し上げます。敬老会に並行してステージ発表が行なわれました。詩吟あり、大正琴あり、カラオケ、舞踊と、さらに来賓の町長さんのカラオケも飛び出し、大喝采で、演ずる人、観賞する人、時を忘れて楽しみました。昨年の要望事項として、もっと多くの方に文化祭りに参加して楽しんでもらいたいと、十七日の午後子供達を中心に体育部の企画でお楽しみ会として、空缶積み、空缶ボーリングなど行なわれました。引き続き来年度の検討課題と思われま

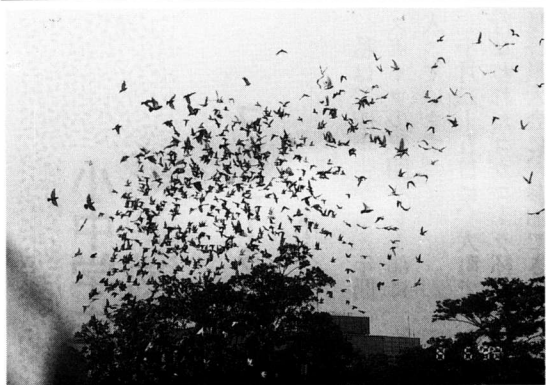
す。以上盛大のうちに文化祭り、敬老会を終えることができました。なお一層の発展を希望します。

随想



平和の鳩に

松下 正(二区)



放鳩(8:15)

日本の中の私たちは、平和の有難さの中にたっぷりつかっています。私たちの心の中に

私はこの夏、広島平和バス高森町派遣団の一員として広島を訪れ、ひめゆりの塔を参列し、貴重な被爆体験を持つ語り部の方の話を聞きました。

戦争は、国と国との争いですが、争いは国内の権力争いや民族紛争をはじめ、身近なところにもあります。そして、平和の原点はひとりひとりの心の中にあると思います。

平和を愛する心は本当に育っているでしょうか。差別・偏見・憎悪・いじめなど身近かなところに、またひとりひとりの心の中に潜んでいないでしょうか。

私たちは、広く世界に向けて平和への祈りを叫び続けていくとともに、偏見や憎悪を捨てて、平和を担う力を、ひとりひとりの心の中に育てていかなければならないと思います。平和の鳩に願いを託して。

ある出会い

北原 幸男(四区)

十月四日、信濃町にある『黒姫童話館』へ、町のバスで行ってきました。目的は、ここでひらかれた『親と子と先生による森の朗読会』に参加するためでした。

実際の朗読は小学二年の妹さんに、お母さんを加えた三人で行なわれましたが、その妹さんの名前をきいてまたびっくり、それは昨年の入選者の中にあつた名前だったからです。

特別ゲストが女優の榎山文枝さん、という魅力もありましたが、私には別にSが、その作品を通して特別な思いがあつたのです。それが、久しぶりに気持ちの良い汗をかきました。しめじはごはんとお吸い物に、くりだけは里いもと煮物にしようと考えながら山を下りました。

きのこ取り

湯沢 恵美子(五区)

さわやかな秋晴れの日、主人ときのご取りに行きました。目的の地に到着して驚いてしまいました。山の入口に「森林浴遊歩道入口」と書かれた標識が立っているのです。不動滝に売店が出現したのは知っていましたが、山の中まで人が入り易いように木を切ってしまったのです。たしかに道は歩き易くなり、紅葉はきれいでしたが、木を切ったことにより崩れている所がありました。自然のままでも森林浴はできると思います。春わ



これはこの作品が、『信州児童文学会』で行なっている小・中学生童話コンクールの一昨年の入選作だったからで、その選考に関わった私が、たまたま最初にこの作品に目を通し、候補に推薦した思い出があつたからです。

実際の朗読は小学二年の妹さんに、お母さんを加えた三人で行なわれましたが、その妹さんの名前をきいてまたびっくり、それは昨年の入選者の中にあつた名前だったからです。

この会が終わって、私はSちゃんをはじめ、皆さんに会い、話をする事が出来ました。お母さんは、「入選したということで、多くの方々に会えることが出来た」という事で、大変喜んで下さいました。

「今年も応募しますか？」と私がいうと、「はい」とすかさず、姉妹から返事が返ってきました。

その返事をきいたとき、この子供達にとって今日の出会いが、長く思い出に残るものになったのだろうか。私は一種のうれしさを、おぼえながら、自問したのでした。

小中学生の作文

コココーラ杯

小六 今村 笑加 (六区)

私は、四年生から三年間スポーツ少年団バレー部に入っています。

十月二十五日に、大町で行なわれたコココーラ杯の長野県大会に、参加できることが決まり、初めての県大会への出場だけに、先生、お母さん方、チームメンバーそれぞれに力が入って、何日もの練習に、はげみました。

当日の大町までは、初めての遠征への、きん張感でもとても遠く感じました。

会場に着くと、思ったよりも多くの参加チームがいきました。

開会式後、私たちと、せばチームとの一回戦目の試合が、始まりました。

一セット目、せばチームのサーブで始まり、ネットぎりぎりの、サーブが飛びこんできた。しかし、みんなの好プレーによって、ア

てしまい、とてもくやしかった。

県大会に出場して、力のレベルのちがいがわかりました。この経験と反省を生かしてこれからの練習にばげみ、小学校最後の良い思い出にしたいと思っています。



地下歩道の絵

小四 田口 奈穂子 (三区)

私達が地下歩道の絵をかきあげた時は、「うん。みんなでがんばってよかった。明るくていいなあ。」と思いました。

毎週日曜日に、会所へ集まっておとなの人達に見てもらいながら、みんな地下絵をかきました。下絵をつくるのに一年ぐらいかかり、かべへかいて、完成したのは私が二年生の秋でした。

下絵をつくる間は、この絵を地下歩道へかいたら、どうなるかなあ。大きくかくし、色もクレヨンとちが

うペンキなので、そうぞうして、早くかべへかきたいと思い、みんなで話し合いながらかきました。休みの時間には、おやつをもらったり、遊んだことも楽しい思い出です。この間、町の育成会から表彰状をもらい、みんなでよろこびました。

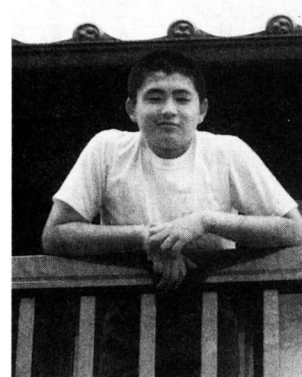
毎日学校の行き帰りに地下歩道を通りますが、くもの葉やほこりできたくなつたので、おとなの人達におねがいしてきれいにしても

らいたいと思います。そして、まだ、あいてい

小原ヶ丘祭を終えて

中三 久保田 浩光 (二区)

十月三十、三十一日に行なわれた小原ヶ丘祭は、僕にとって中学校生活最後の文化祭となりました。今年の小原ヶ丘祭は、今までとは少し

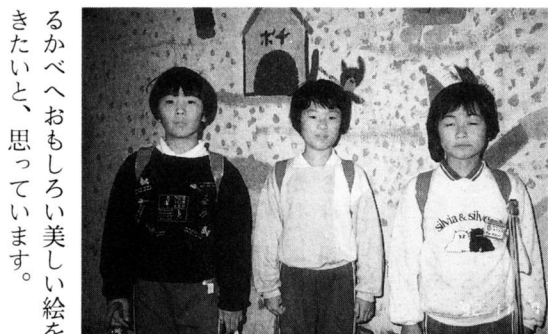


浩光くん

ちがった小原ヶ丘祭でした。討論会、という新しい自主活動でした。また、今年からは、金曜日と土曜日というふうに、日曜日には行なわれませんでした。さらに、

学級だけの展覧会というのもなくりました。

このように、今年から文化祭は、新しくなったわけですが、それでも内容は今までに劣らぬほど良いものとなりました。むしろ、それ以上のものとなったイベントがあります。それは、第二日目に行なわれた音楽会です。ぼくは今年、この音楽会の審査員を行ないました。どの歌もすばらしく、得点を付けるのがむずかしかったです。みんな、一位をあげたいくらいだった。



地下歩道の絵の前で (左端が奈穂子さん)

小原ヶ丘祭も終わり、僕たち三年生が

次に目指すもののはっきりしてきた。この目標にも、あの小原ヶ丘祭を成功させた努力で、乗りこえていきたい。

編集後記

二十四号の発行にあたり年末のお忙しいところ各方面から報告・随想・作文などの原稿をお寄せいただきありがとうございました。区関係の代議員及び各委員。公民館の各部員の任期が終了しますので、二年間の活動のまとめや感想などと、この秋行なった文化祭、敬老会、カラオケ大会などの行事を中心に編集しました。

ご家庭で小学生からお年寄りまで見ていただけるような記事と写真を多くして編集しました。

編集委員の任期も終わります。二年間、取材や原稿依頼にご協力ありがとうございました。

